慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	現代先住民作家から考える米加横断的文学史の可能性 : トマス・キングとジェラルド・ヴィゼナーの場合
Sub Title	Native literature of the U.S.-Canada border : a case of Thomas King and Gerald Vizenor
Author	加藤, 有佳織(Kato, Yukari)
Publisher	慶應義塾大学
Publication year	2018
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2017.)
JaLC DOI	
Abstract	文献の収集と整理を行ない, トマス・キングの主要著作およびジェラルド・ヴィゼナーの近年の作品について疑問点や論点を抽出した。彼らはともに, 先住民文化のスポークスパーソンとして創作活動を行ない, アメリカ合衆国やカナダという国民国家の枠組みが自明のものではないことを示す作品を創り出している。ポストモダン文学以降の手法を用いながら, それぞれチェロキーやアニシナベの伝承を自在に語り直す作風も共通している。 このような共通点を理解した上で, 両者を比較分析するために, それぞれの作風や作品の背景について論点をしぼり込んだ。現在, 次の二つの点について先行研究網羅と論点整理をすすめている。 1)キングの作品"Borders" アメリカ合衆国やカナダが成立する以前の北アメリカ大陸を想像させる作品は, しばしば国家横断的な批評性を持つと評価されるが, 同時に, 米加国境を横断することのリスクや困難も考慮する必要がある。この作品とその社会文化的文脈を精査することで, ただ楽観的な国境横断の夢想というよりも, 現実的背骨を持つ米加国境横断の文学的可能性が浮かび上がるのではないかと現時点では考えている。 2)ヴィゼナーのコスモポリタニズム ヴィゼナーの米加国境を横断する文学的想像力について分析するためには, まず彼の混成的なコスモポリタニズムを理解する必要がある。アメリカ合衆国という枠組みを再検討するために, 多様な要素を自在に組み合わせるコスモポリタン的混成を用いる前例は少なくない。この系譜にヴィゼナーはどのように位置付けられるか, そして彼のコスモポリタニズムは先住民自治活動とどのように両立・連動しているか考察することで, 北アメリカ大陸という現実空間における越境・横断をより精密に分析できるのではないかと考えている。 報告書作成時点で, 以上の二点について明確な結論には達しておらず, 継続して研究をすすめている。 Having read works of Thomas King and Gerald Vizenor and done general research on their literary works, I am confident that their works can be discussed comparatively although they have rarely discussed in pair. Both King and Vizenor have been working as a spokesperson for their native communities and published literary works that question the national framework as well as the U.S.-Canadian border. They approach to the similar issues in a similar playful postmodernist manner. In addition to their similarities, I found it necessary to consider the following two aspects that would differentiate King and Vizenor : 1) King's short story, "Borders" and Vizenor's cosmopolitanism. King does not simply celebrate symbolic possibility of border-crossing but also represents its actual risks and dangers. In order to define King's literary attitude more clearly, I am now looking into the story and its social and cultural background. While figuring out the context of King's short story, I also started reexamining Vizenor's cosmopolitanism and political activities. So far, I have not yet reached any firm conclusion and am still working on these topics.
Notes	
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2017000001-20170263

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

2017年度　学事振興資金（個人研究）研究成果実績報告書

2018年4月9日

研究代表者	所属	文学部	職名	助教	補助額	300 （A） 千円
	氏名	加藤 有佳織	氏名（英語）	Yukari Kato		

研究課題（日本語）

現代先住民作家から考える米加横断的文学史の可能性――トマス・キングとジェラルド・ヴィゼナーの場合

研究課題（英訳）

Native Literature of the U.S.-Canada Border: A Case of Thomas King and Gerald Vizenor

１．研究成果実績の概要

文献の収集と整理を行ない、トマス・キングの主要著作およびジェラルド・ヴィゼナーの近年の作品について疑問点や論点を抽出した。彼らはともに、先住民文化のスポークスパーソンとして創作活動を行ない、アメリカ合衆国やカナダという国民国家の枠組みが自明のものではないことを示す作品を創り出している。ポストモダン文学以降の手法を用いながら、それぞれチェロキーやアニシナベの伝承を自在に語り直す作風も共通している。このような共通点を理解した上で、両者を比較分析するために、それぞれの作風や作品の背景について論点をしぼり込んだ。現在、次の二つの点について先行研究網羅と論点整理をすすめている。

1）キングの作品“Borders”

アメリカ合衆国やカナダが成立する以前の北アメリカ大陸を想像させる作品は、しばしば国家横断的な批評性を持つと評価されるが、同時に、米加国境を横断することのリスクや困難も考慮する必要がある。この作品とその社会文化的文脈を精査することで、ただ楽観的な国境横断の夢想というよりも、現実的背骨を持つ米加国境横断の文学的可能性が浮かび上がるのではないかと現時点では考えている。

2）ヴィゼナーのコスモポリタニズム

ヴィゼナーの米加国境を横断する文学的想像力について分析するためには、まず彼の混成的なコスモポリタニズムを理解する必要がある。アメリカ合衆国という枠組みを再検討するために、多様な要素を自在に組み合わせるコスモポリタン的混成を用いる前例は少なくない。この系譜にヴィゼナーはどのように位置付けられるか、そして彼のコスモポリタニズムは先住民自治活動とどのように両立・連動しているか考察することで、北アメリカ大陸という現実空間における越境・横断をより精密に分析できるのではないかと考えている。

報告書作成時点で、以上の二点について明確な結論には達しておらず、継続して研究をすすめている。

２．研究成果実績の概要（英訳）

Having read works of Thomas King and Gerald Vizenor and done general research on their literary works, I am confident that their works can be discussed comparatively although they have rarely discussed in pair. Both King and Vizenor have been working as a spokesperson for their native communities and published literary works that question the national framework as well as the U.S.-Canadian border. They approach to the similar issues in a similar playful postmodernist manner. In addition to their similarities, I found it necessary to consider the following two aspects that would differentiate King and Vizenor: 1) King's short story, “Borders” and Vizenor's cosmopolitanism. King does not simply celebrate symbolic possibility of border-crossing but also represents its actual risks and dangers. In order to define King's literary attitude more clearly, I am now looking into the story and its social and cultural background. While figuring out the context of King's short story, I also started reexamining Vizenor's cosmopolitanism and political activities. So far, I have not yet reached any firm conclusion and am still working on these topics.

３．本研究課題に関する発表

発表者氏名 （著者・講演者）	発表課題名 （著書名・演題）	発表学術誌名 （著書発行所・講演学会）	学術誌発行年月 （著書発行年月・講演年月）